

第11課 クリスマンと仕事

【暗唱聖句】

「わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです」
第一コリント 15:58

【日曜日・仕事の多くの側面】

「人だれもが飲み食いし、その勞苦によって満足するのは神の賜物だ」 コヘレト 3:13

仕事は苦勞の多いものですが、それによって生活が安定し、満足のいく人生を送ることができるのは、神様からの賜物です。どんな仕事であったとしても、神様に感謝しなければなりません。またその意味では、退職後も有給無給問わず何がしかの仕事を見つけことは、人生の満足につながります。

「お前は顔に汗を流してパンを得る。土に返るときまで…」 創世記 3:19

確かに罪の結果土が呪われ、いばらとあざみが生えてきたために、土を耕して食べ物を得ること、すなわち生きるということが大変大きな苦勞を伴うものとなりました。しかし、先のコヘレトの言葉にあるように、その勞苦によって満足を人は得るのです。「顔に汗を流してパンを得る」ようになったことは、罪の罰ととらえられがちですが、むしろその中に神の赦しが見えるのです。土は呪われたにも関わらず、今もなお種を蒔けば芽をだし、花を咲かせ、実を実らせる。罪の結果は死しかないはずなのですが、その土と種と実のりの中に、神様の命の力がまだ生き続けているのが見えるからです。私たちは神様の赦しを忘れないように、土に返る日まで働き続けます。

【月曜日・仕事と育成】

「七日間、主の選ばれる場所でああなたの神、主のために祭りを行いなさい。あなたの神、主がああなたの収穫と手の業をすべて祝福される。あなたはただそれを喜び祝うのである」 申命記 16:15

*神様は私たちの働きを祝福して下さいます。そのことを感謝し喜びましょう。

「何によらず手をつけたことは熱心にするがよい。いつかは行かなければならないあの陰府には、仕事も企ても、知恵も知識も、もうないのだ」 コヘレト 9:10

*どんな仕事でも始めた仕事は熱心にしましょう。いつまでも働けるわけではないからです。

「怠け者は自分の欲望に殺される。彼の手が働くことを拒むからだ」 箴言 21:25

*怠けて働かないなら、やがて自分の欲望の赴くままとなり、それは自滅につながっていくことでしょう。

「わたしは、わが民の甚だしい悪に対して裁きを告げる。彼らはわたしを捨て、他の神々に香をたき、手で造ったものの前にひれ伏した。」 エレミヤ 1:16

*私たちの仕事はすべてが良いわけではありません。偶像を築き上げてしまうような、神様の御心ではない仕事は避けなければなりません。

仕事は神様からの祝福です。それは自分自身にとっての祝福であるのと同時に、最終的には他者にとっても祝福となるべきです。パウロは次のように言いました。

「ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました」使徒 20:34、35

【火曜日・仕事と質の高さ】

出エジプト 25 章から 30 章にかけて、神様はモーセに幕屋を建てるようにお命じになりましたが、その内容は大変細かいもので、材質や作り方にもこだわりを感じるものでした。それが意味しているのは、神様の働きには妥協がなく完璧さが求められたということです。しかし、神様は不可能なことを命じられたわけではありません。必要な人材や技術、資金もお授けくださったことが書かれてあり、彼らは霊に満たされ、主が言われたとおりに作業を行っていきました。

「ベツアルエルとオホリアブ、および知恵と英知を主から授けられ、聖所の建設のすべての仕事を行うに必要な知識を与えられた、心に知恵のある者は、すべて主が命じられたとおりに、作業に当たらねばならない」出エジプト 36:1

「モーセはイスラエルの人々に言った。「見よ、主は、ユダ族のフルの孫、ウリの子ベツアルエルを名指しで呼び、彼に神の霊を満たし、どのような工芸にも知恵と英知と知識を持たせ…」出エジプト 35:30、31

教会の働きも同様に妥協することなく行っていくべきですが、そのための必要な人材や技術、資金を主が与えて下さることを信じましょう。

【水曜日・仕事と霊性】

「わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう」第一コリント 5:25

仕事と霊性は切り離せません。SS ガイドに証が掲載されていますが、アドベンチスト病院で働いている看護師さんの働きに感銘を受けた患者さんが、大学で多額の寄付をされました。これは看護師としての働きに霊性と品性の実である愛が伴っていた結果と言えるでしょう。どのような働きであれ、祈りと信仰をもってなしていくことが大切です。その結果、自分の栄光ではなく、神様の栄光が表されることでしょう。

【木曜日・仕事と管理者の務め】

「だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」第一コリント 10:31

仕事は仕事、家庭は家庭、教会は教会（霊的生活は霊的生活）というように、私たちは生活の領域を切り分けて考えがちです。切り分けて考えることのメリットは、メリハリができることです。仕事を家庭内に持ち込めば、あまり良いことはないでしょう。ところで、聖書は「食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」と教えています。それぞれを切り分けて考えるのは良いのですが、何をするにしても常に神様の栄光のためにならなければならないということです。霊的なものは切り分けられないのです。このことをいつも覚えて、1日の生活をスタートするようにしたいものです。